

戦国に霧散した要城 若江城

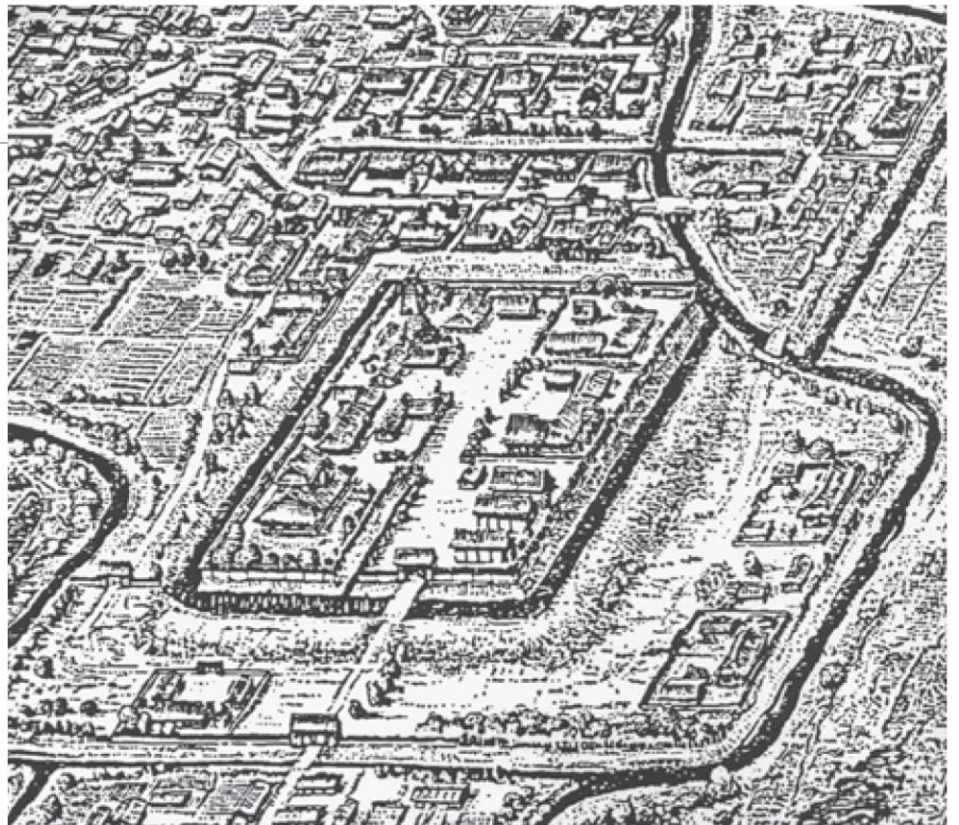
若江城址碑

所在地：東大阪市若江南町2丁目9-3

200年あまり

乱世のはじまりと

終わりを見届けた、若江城



▲若江城の復元図（『東大阪市文化財協会ニュース』VOL.2 No.3『特集:若江城』（財）東大阪市文化財協会 1987年より）



▲若江城址碑

南北朝時代、河内守護畠山基国により築かれ、守護代遊佐氏が城主となった若江城。この地は湿田と湿地に囲まれ、古代には若江郡衙（役所）と寺があり、経済活動が盛んであった。15世紀中頃、畠山家の家督をめぐる内紛は、幕府・朝廷を巻き込む騒動に発展し、ついには応仁の乱を誘発。60年間にわたり若江城は獲ったり獲られたり争奪戦の渦中に巻き込まれ、畠山家の勢力は衰退。若江城主もめまぐるしく変わっていった。

16世紀末、石山本願寺が織田信長に降伏した後、若江城は廃城。宣教師ルイス・フロイスの手紙にも「若江の中央を通ったが此処には今城もなく」と記されている。

月日は流れ、1615年の大坂夏の陣。この地で徳川家と豊臣家の、若江の合戦が火ぶたを切られた。最後まで豊臣家に忠誠を誓い、討ち死にした若き武将木村重成を偲び、若江城跡の南側にある蓮城寺には木村重成の位牌が祀られている。